

スクールソーシャルワークで大切なこと

スクールソーシャルワークの基本原則

子どもの利益の最優先

保護者や教師などのとらえ方だけではなく、問題の当事者である子ども自身にとって、どうすることが最も良いことなのかという視点で、本当の子どもの利益は何かを考えて活動すること。

子どもの意志の確認

子どもに関わる判断がなされる場合は、子どもの意志を尊重することが重要である。他者の利益を侵害することがない範囲において、子どもの意志の確認を行うこと。

秘密の保持

秘密が保証されない状況では、子どもたちが心を開くことはなく、子どもの正確な状況を見極めることもできない。子どものプライバシーを保護すること。

スクールソーシャルワークのプロセス

アセスメント（見立て）

- ①人の行動には、必ず理由（原因）があると思う。
- ②その理由を、個人と環境との関係の中で見出そうとする。
- ③理由を見出すためには、情報を集め分析することが役立つ。

アセスメントとは、解決すべき問題や課題のある事例の家族や地域、関係者などの情報から、なぜこのような状態に至っているのかを探ること。

アセスメントシートを作成し、情報を記録していきます。



プランニング（手だて）

- ④理由が見出せたら、それに対する最善の対応策を考える。

プランニングとは、アセスメントに基づいて、事例（当該家族）に合った目標とプランを考えること。目標には長期目標と短期目標があり、具体的に取り組める目標設定であることが大切。



プランの実行

- ⑤その対応策を、関係者で分担して実施する。

プランの実行とは、ケース会議で話し合われた内容を具体的にを行うこと。



評価・モニタリング

- ⑥その実施した結果を振り返って、次の対応策を改善する。

評価・モニタリングとは、アセスメントからどのような目標を立て、プランに沿ってどのように動いたのか、結果はどうだったのかを評価し、見直しを行うこと。うまくいったときは継続し、うまくいかなかったときは、アセスメントまたはプランニングが不十分だったのか、実行段階に問題があったのか等を丁寧に評価し、柔軟に修正を行う。

アセスメント、プランニング、モニタリングを、学校の職員等（関係機関等も含めて）によるケース会議を設定して、共同で行うことが大切です。